

WEEKLY SIGNAL

平成31年4月19日(金) 1471号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	4/22(月)	4/23(火)	4/24(水)	4/25(木)	4/26(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△ 3,800	△ 2,000	△ 3,000	△ 4,000	△ 5,900
財政他	+ 4,700	+ 5,000	△ 12,000	+ 11,000	+ 7,500
資金需給	+ 900	+ 3,000	△ 15,000	+ 7,000	+ 1,600
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		申告所得税揚げ		
オペ期日	共通担保(全店) △ 5,100 CP等買入 △ 300				被災地支援 △ 1,900
オペスタート	国債買入 + 9,800 共通担保(全店) + 4,100 社債等買入 + 800 ETF買入 + 700				
(日本)	コンビニエンスストア売上高	営業毎旬報告(4月20日現在) 全国百貨店売上高(3月)	日銀金融政策決定会合(25日まで) 全産業活動指数(2月)	展望レポート 対外・対内証券投資(4月14-21日)	完全失業率(3月) 有効求人倍率(3月) 消費者物価指数(東京都都区部、4月) 鉱工業生産指数(3月)
(海外)	米 中古住宅販売件数(3月)	米 新築住宅販売件数(3月) ユーロ圏 消費者信頼感指数 (4月、速報値)		米 新規失業保険申請件数 (20日終了週) 米 製造業受注(3月、速報値)	米 GDP(1月-3月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.045 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、396兆9,600億円から始まり、17日には、財政等要因を主因に若干減少したものの、その後は国債買入等により増加に転じ、週末には397兆6,100億円となった。
無担保コールON物加重平均金利は、新積み期に入ると、年金定時払い後で資金余剰感が強い中、大型連休を控えていることもあり、調達を慎重に行う参加者が多く軟調な展開となり、△0.072%～△0.065%のレンジで推移した。
ターム物は1～2W物を中心に△0.04%～△0.07%での取引。前週に比べワイドレンジで出合が見られた。
19日に発表された3月の全国消費者物価指数(生鮮食品を除いたコアCPI)の伸び率は、前月比+0.1%の前年同月比+0.8%となった。
来週は国内では、日銀金融政策決定会合(24、25日)、展望レポートの公表(25日)、4月の都区部消費者物価指数(26日)、海外では1-3月の米国GDP(26日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約9,100億円で、週間償還額(約5,200億円)に対し発行超となった。発行市場は、5・10日発行もあって活況なマーケットであった。発行残高は、先週末の18兆1,543億円から増加し、18日には約19兆1,000億円となった。発行レートは、投資家・ディーラー等の積極的な購入ニーズから、引き続き0%からマイナスでの出合いであった。
来週の償還総額(4/22～4/26)は、月末の大量償還(約9,000億円)を含め1兆1,800億円程度となっている。発行市場は、大型連休を控えた月末週となるため、活況なマーケットを予想する。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが引き続き強く、0%からマイナスレートでの出合いとなろう。CP等買入オペが、23日に1,500億円がオフアされる予定である。

＜TDB＞

今週の国庫短期証券市場は、先週に比べやや軟調な地合い。18日入札の1Y827回債は最高落札レート△0.1651%(前回債△0.1747%)、平均落札レート△0.1691%(同△0.1787%)。19日入札の3M828回債は、発行日が英国の休日と重なることから前回債に比べ需要が低下し、最高落札レート△0.1358%(前回債△0.1861%)、平均落札レート△0.1552%(同△0.1984%)と大きく上昇した。セカンダリー市場では3M物は△0.145%程度の出合となった。
来週は国庫短期証券の入札予定はなし。

＜レポ＞

銘柄先決めGC取引は週初△0.13%～△0.14%から始まり、週末にかけて△0.10%～△0.11%まで上昇。短期1Y、3Mの発行が重なった22日受け渡しもレート水準に変化はなく、△0.10%台で取引された。
SC取引では10年354回債のbidが多く、週を通して△0.10%台前半～半ば。5年139回債は、国債買入オペがオフアされた22日受け渡しで△0.60%近辺の出合が一部見られた。その他2年398・399回債、5年137・138回債、10年341・342・343・344・345・346・347・349・350・351・352・353回債、20年166・167・168回債、30年60・61・62回債、40年11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。